

優秀賞

## ケチャップの夜に

山口県 高橋 昌子

留学先で初めて迎えるクリスマス。イギリスに着いてからの3ヶ月間、ほとんど外食をせず頑張った自分へのご褒美にと、少しおしゃれをして、夕暮れ時、街中のレストランに出かけた。

クリスマスらしくゴールドと緑と赤を基調に明るく華やいだ店内。案内された席の隣には髭の似合うイギリス紳士と真っ白なパンツに赤いジャケットが素敵な淑女の初老カップル。楽しいな会話が、歌のように流れ聞こえる。さて、私はというと、メニューに載った料理の横に記されたまの額面の高さにおじけづき、どうしよう。今更出ていくのも恥ずかしいと悩みぬき、結局一番安いフィッシュ&チップスを一皿だけ注文した。

やがて厳かに運ばれてきた、大きなお皿には見事な黄金色のポテトの山。揚げたてのタラも隣に湯気をあげて横たわっている。これで11ポンドかあ。スーパーでジャガイモ2キロ、チキン、ブロッコリーに一週間分のパンが買えたなあ。ケチャップソースの入った銀食器にスプーンを入れた瞬間、はずみがついて、ケチャップの飛沫が目の前をピュッと横切り、隣のご婦人の白いパンツの上に散った。なんとということなんていうこと！硬直した私の顔と自身のパンツの上の赤いケチャップをかわるがわるに見やり、ご婦人は一言「It's okay」。トッパ、謝って済む問題ではないし簡単に弁償できるものでもない。

どんどん冷えていくフィッシュ&チップスを前に項垂れていると、コンコンとテーブルをノックする音。顔を上げると笑顔のご婦人が「God bless you.」の一言。そっし、

「あなたのおかげで私、今夜この言葉を届けるチャンスももらったのよ。だから、悲しい顔をしないで。」

これまで「失敗」の次に繋げる良い言葉は「くじけない」だと思ってきた。けれど、この夜の「失敗」の先にあったのは、大いなる愛を分かち合える「喜び」だった。